古賀植木園芸組合

警　告
WARNING

イヌマキの害虫
「ケブカトラカミキリ」にご注意下さい！

ケブカトラカミキリについて

体長８～14mm、日本在来のカミキリ虫の一種で、イヌマキ、ラカンマキ、ナギ（マキ科）の３種を食害します。樹皮下の形成層を食害するため、水や養分の通道が阻害されることで、一部または全体が枯死してしまいます。

以前から鹿児島県や宮崎県をはじめとする九州各地、四国で被害が確認されており、平成20年からは千葉県でも被害が発生し、平成26年までに2,400本以上が被害を受けています。

長崎県内では、諫早公園や川棚で被害が確認されており、令和４年６月には長崎市松原町で成虫を捕獲、12月に被害木が確認されました。同時にイヌマキを食害している成虫も捕獲しました。令和5年の春からは県内各地で、被害が確認されています。

ケブカトラカミキリの生態

ケブカトラカミキリは１年に１回発生します。木の中で越冬した成虫が４月～６月にかけて４mmほどの脱出孔を空けて被害木から脱出し、すぐに交尾をはじめ、脱出から10～30日程度の間に１雌平均約40個の卵を樹皮のすき間に産卵します。

卵は10日前後でふ化し、幼虫が10月頃まで樹皮下を食害します。その後、蛹室内で蛹化・羽化して、成虫の状態で蛹室内で越冬します。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
材　内	成虫			卵		幼虫 幼虫が形成層を食害					蛹	成虫
材　外				成虫脱出 産卵期								
防除対策	被害木の伐採適期			薬剤散布適期 幹周りに散布				被害木の伐採適期 焼却・くん蒸・破砕				

※裏面へつづく

被害の特徴

①葉の色つやが悪く、黄変し、やがて枯死する

侵入開始から数年をかけて食害が形成層を一周すると枯死に至ります（写真４）。目に見える被害は葉色の変化から始まり、最終的には枯死します（写真１）。特定の枝だけ枯れることあります（写真２）。

②幹がリング状に盛り上がる

木が食害された傷を治そうとして、このように盛り上がることがあります（写真５）。

③脱出孔が開く

①、②の被害は他の病害虫でも同様の症状がでることもありますが、**脱出孔（写真３）が確認できれば、ケブカトラカミキリによる被害の可能性が高く**なります。樹皮を剥いで食害痕（写真４）が確認できれば断定できます。また、地際からも成虫が脱出（写真６）しますので、伐採後の切り株にも薬剤処理を行う必要があります。

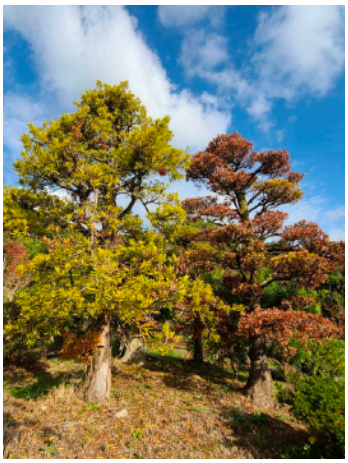

写真１：被害事例
左：当年被害
右：一昨年被害
（長崎市松原町）

写真２：枝枯れ事例
（長崎市松原町）

写真３：脱出孔
直径約３～４mm
（長崎市松原町）

写真４：食害痕
（長崎市松原町）

防　　除

①被害木の伐採・処分

３月までに被害木の伐採・処分を行って下さい。伐採だけでなく必ず焼却、くん蒸、破砕のいずれかの処分を行って下さい。

②成虫脱出期の薬剤散布

成虫が脱出して外に出てくる４月～６月の２週間毎に樹幹に薬剤散布を行う。

写真５：幹のリング状隆起
（諫早公園）

写真６：地際の脱出孔
（松原町）

●登録農薬

商品名	種類名	適用作物	適用害虫	希釈倍数等	使用方法/総回数
スミパイン乳剤	MEP乳剤80	樹木類	カミキリムシ類	50～150倍	樹幹散布/６回以内
トレボンMC	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ ﾏｲｸﾛｶﾌﾟｾﾙ剤	いぬまき	ケブカトラカミキリ	2000倍	散布/６回以内
トレボンEW	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ乳剤EW	いぬまき	ケブカトラカミキリ	2000倍	散布/６回以内
NCS	カーバム剤	いぬまき（伐倒木）	ケブカトラカミキリ	0.5L/m3・14日以上 1.0L/m3・7日以上	加害伐倒木に本剤を散布し密閉くん蒸する

※スミパイン乳剤は、展葉期に葉にかかると周辺部が褐変して葉が巻く薬害が確認されているため、トレボンMC、トレボンEW　の施用が望ましい。

※トレボンMCは古賀植木園芸組合で販売しています。